

環境審議会意見への対応

H29.7.13環境審議会用配布資料				H29.8.29環境審議会用配布資料			
頁	項目	行数	意見内容	対応状況	頁	素案への反映	
-	全般	-	基本計画の「内容・章立てはストーリー性」があった方がよいのではないか。ぶつぶつと切れているような感じがする。西脇の気象が、この計画にどう関わりがあるのか。	現状把握、現状から見える課題、課題に対する方針、方針に向けた目標項目及び目標値の設定、方針や目標値を達成するための施策や具体的取組みといったストーリー性を持たせます。	-	地域特性は資料編へ移項します。	
-	全般	-	「西脇市の気象や環境を踏まえた独自性」を持った方がよいのではないか。		-	地域特性は資料編へ移項します。	
-	全般	-	言葉が難しい。例えば、資源化率と資源回収率とはどう違うのか。わかりやすい表現に。解説を入れるな	適宜、注釈を付記します。	68	巻末に語句解説しました。	
1	第1章 基本的事項 1. 計画の目的 序文	1行目	「大量生産・大量消費は大量廃棄型の社会を形成するとともに」の記載は、近年に似つかわしくないと思われるため削除したらどうか。	見直します。	1	他の部分も含め見直しました。詳細は当該ページを確認ください。	
19	第3章 ごみ処理の現状 2. 排出について (4)1人1日当たりのごみ 排出量	図表3-8	事業系ごみや集団回収量は入っているのか。他のグラフも含め、何が含まれているのか明示したほうがよいのではないか。	明記します。	11	本文中に明記しました。	
20	第3章 ごみ処理の現状 3. 処理処分について (2)中間処理の概要	3行目	「リサイクルプラザでは学習ルームも併設しており、各種講座等を開催しています。」の記載は、この項目には不要ではないか。書くとすれば、環境学習についての別項目を設けるべきではないか。	「リサイクルプラザでは学習ルームも併設しており、各種講座等を開催しています。」の記載を削除します。	23	削除し、24ページに移項しました。	
23	第3章 ごみ処理の現状 3. 処理処分について (3)資源化量	図表3-16	「焼却以外の中間処理量」の意味が分かりにくいのではないか。	注釈を付記します。	69	巻末に語句解説しました。	
24	第3章 ごみ処理の現状 3. 処理処分について (4)資源率	1行目	資源化率と他ページ「資源回収率」等とはどう違うのか。	資源化率と資源回収率(=リサイクル率)は異なります。総処理量と集団回収量の合計に対し、資源化する量の割合を「資源化率」とします。資源化する量とは、資源化処理を経ず、直接焼却された量や直接埋立処分された量以外の量をいいます。	27	定義しました。	
25	第3章 ごみ処理の現状 3. 処理処分について (5)最終処分量	2行目	「処理残渣埋立量は減少していますが…」とあるが、図表3-20からは、そうは見えない。	修正します。	14	「処理残渣埋立量は横ばいですが、直接埋立量はやや減少しています」に訂正しました。	
25	第3章 ごみ処理の現状 3. 処理処分について (5)最終処分量	図表3-21	はやすクリーンセンターに、焼却灰等は埋立てているのか。	埋立てています。	14	図表2-15に明記しています。	
26	第3章 ごみ処理の現状 3. 処理処分について (6)ごみ処理経費	図表3-22	ごみ処理経費に、事業系ごみや集団回収助成金は入っているのか。	入っています。	18	本文中に明記しました。	
27	第3章 ごみ処理の現状 3. 処理処分について (7)温室効果ガス排出量	-	温室効果ガス排出量は許可業者を含んだ数値か。	収集運搬許可業者の分は含んでいません。	21	含んでいない旨を注記しました。	
28	第4章 現状の評価と課題 1. 施策の取組状況 序文	1行目	「現行計画」の文言があるが、説明が必要である。「みどり園の処理計画」とのことだが、それを「現行計画」と称してよいか。	ここでは、みどり園の計画を指しています。表現を改めます。	29	みどり園が策定した一般廃棄物処理基本計画であることを明記しました。	

参考資料5

頁	項目	行数	意見内容	対応状況	頁	素案への反映
28 ・ 29	第4章 現状の評価と課題 1. 施策の取組状況 (1)目標値の達成状況	各項目	達成状況の「達成・未達成」についての記載が必要である。	記載します。	29	評価欄を設け、22年度の目標値に対して、また進捗状況に対しての評価をしました。
29 ~ 32	第4章 現状の評価と課題 1. 施策の取組状況 (2)各施策の進捗状況	各項目	施策内容と実施概要について「マッチしていない」記載があるように思う。	見直します。	30 ~ 34	整理しました。
33	第4章 現状の評価と課題 2. 各種調査結果 (1)生活系ごみ質調査	各項目	調査時期や抽出量は、明記してほしい。	明記します。	15	調査時期や抽出量を明記しました。
34	第4章 現状の評価と課題 2. 各種調査結果 (2)各施策の進捗状況	—	事業系ごみ調査の「調査時期」「抽出量」「業種」「業種ごとの特徴」の記載が必要である。	明記します。	17	調査時期や抽出量を明記しました。業種は資料編に掲載します。業種ごとの特徴は、母数が少ないため、分析できておりません。
39	第4章 現状の評価と課題 2. 各種調査結果 (4)ヒアリング調査	2行目	「地域の特徴的な産業に係る団体及び関連事業者」とは、具体的にどこか。	商工会議所や農協、播州織関係の組合等です。別途明記します。	38	「西脇商工会議所、みのり農業協同組合、播州織に係る組合等」と明記しました。
41	第4章 現状の評価と課題 3. システム分析 (2)廃棄物からの資源回収率	—	「資源回収率」のほか、「排出原単位」等専門用語の説明が必要である。	注釈を付記します。	41	注釈を付記しました。
41	第4章 現状の評価と課題 3. システム分析 (5)最終処分減量に要する費用	—	「最終処分減量に要する費用」とは、専門用語の説明が必要である。	注釈を付記します。	41	注釈を付記しました。
42	第4章 現状の評価と課題 4. 課題の整理 (1)ごみの減量化	—	例として「台所ごみ・食品ロスに更なる減量化の余地有り」のように、課題として表現されるべき。	見直します。	42	生ごみの減量化、資源化の課題を強化していくことが課題であることを明記しました。
43	第4章 現状の評価と課題 4. 課題の整理 (6)事業者への働きかけ	—	例として「事業者への働きかけの不足」のように、課題として表現されるべき。	見直します。	43	情報の提供や指導及び資源回収システムづくりなどの支援の必要性を明記しました。
48	第6章 ごみ処理基本計画 1. 基本理念 スローガン 及び サブスローガン	—	「資源循環」は分かりにくいのではないか。 「資源循環のまち」ではなく「資源循環」で止めたらどうか。 「資源ごみ」「ごみは資源」であるなら、ごみをたくさん出すことに繋がらないか。今は、資源をごみにしていることがおかしいことであるため、「ごみは資源」の表現には抵抗を感じる。 スローガンとサブスローガンが同じことを言っているのではないか。 西脇市らしい表現の仕方に。	見直します。	48	他の部分も含め修正しました。詳細は当該ページを確認ください。
48	第6章 ごみ処理基本計画 1. 基本理念 スローガン下文章	—	「大量生産、大量消費及び大量廃棄型の社会を見直し」の記載は、古く感じる。現状を踏まえると削除するか、別な文章とすべきではないか。	見直します。	48	他の部分も含め修正しました。詳細は当該ページを確認ください。
49	第6章 ごみ処理基本計画 2. 基本方針	—	他都市にはない、西脇市らしいものを。	見直します。	49	他の部分も含め修正しました。詳細は当該ページを確認ください。

頁	項目	行数	意見内容	対応状況	頁	素案への反映
49	第6章 ごみ処理基本計画	—	「理念」のあとに、2. (基本)指針の項目を追加してはどうか。 (例として) ・3大指針 ○ごみ指標…廃棄物の物質フロー指標 (集団回収等、マテリアルの流れ) ○地域社会指標…負担と利益の経済指標 (コスト指標) ○環境指標…温室効果ガスの削減効果	記載します。	48	図表6-11に図示しました。
49	第6章 ごみ処理基本計画 2. 基本方針	第1項	「各主体の協働」は具体的な表現とすべきではないか。協働とごみの減量のつながりが見えない。具体的な協働は何を意味しているのか。未利用食品をどのように協働するのか。	見直します。	49	他の部分も含め修正しました。詳細は当該ページを確認ください。
49	第6章 ごみ処理基本計画 2. 基本方針	第1項	分別や減量等を先に述べて協働が一番下の方が分かりやすいのではないかな。	見直します。	49	他の部分も含め修正しました。詳細は当該ページを確認ください。
49	第6章 ごみ処理基本計画 2. 基本方針	第2項 タイトル	「分別」と「再使用、再生利用」は別な項目とすべきではないか。	見直します。	49	他の部分も含め修正しました。詳細は当該ページを確認ください。
49	第6章 ごみ処理基本計画 2. 基本方針	第4項	「適正処理困難物…」の記載は、市が直接処理しないのであれば不要ではないか。	削除します。	49	削除しました。
49	第6章 ごみ処理基本計画 2. 基本方針	—	「災害時(の体制)」に関する項目または、4つ目に記載が必要ではないか。それについては、近隣自治体との連携するなどの計画となる。	記載します。	62	基本方針5の中の個別施策に位置付けました。
50	第6章 ごみ処理基本計画 3. 目標の設定 (2)目標の設定	—	1日1人当たりごみ排出量「(集団回収を含む)」の記載は適当か。この排出量を減らそうと思えば、集団回収も減らすのか。集団回収を除いた数値ではいかがか。 国の統計では「集団回収」を含んでいるので併記す	併記します。	50	集団回収を除いた数値及び含んだ数値を併記します。
50	第6章 ごみ処理基本計画 3. 目標の設定 (2)目標の設定	—	昨今は、1日1人当たり燃やすごみ量を設定する自治体は少ないのではないかな。新しい施設でメタン化するとすると稼働前後にギャップができるので、メタン施設稼働後の設定が難しいのではないかな。 宝塚市では燃やすごみゼロを目標に掲げたという例もある。	当市では、可燃ごみを減らし、資源として生かす方策をとるため、1日1人当たり燃やすごみ量を設定しています。処理方式が現状と異なることとなった場合には、目標を見直します。	50	修正することなく、1日1人当たり燃やすごみ量を設定します。
50	第6章 ごみ処理基本計画 3. 目標の設定 (2)目標の設定	—	西脇の一人あたりのごみ量は少ない。今後、全国的な水準で減らしていくのか。ぞうきんを絞り切っている状態なのか。西脇市の産業構造がどうなのか。それは全国的にはどうなのか。全国のごみ排出量はどうか。だから、西脇のごみの目標をどこに置くのか。まだ減らせるのか。といったストーリー性が重要。	ごみの組成調査結果を見ると、紙ごみなどまだ資源として利用できるものが混入しています。国や県の目標数値(2020(平成32)年度)は達成していますが、将来人口構造などから、目標を設定します。	50	将来人口構造や実施施策により目標数値を設定します。
50	第6章 ごみ処理基本計画 3. 目標の設定 (2)目標の設定	—	目標設定項目と基本方針のリンクが判るような記載が望ましい。	現状把握、現状から見える課題、課題に対する方針、方針に向けた目標項目及び目標値の設定、方針や目標値を達成するための施策や具体的取組みといったストーリー性を持たせます。	—	ストーリー性があるように、全体の構成を見直しました。